

ふるさと奥尻通信

平成28年5月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭言

長い年月を経て築き上げてきたもの。それが歴史であり、文化であり、風土であり、気質である。百年は区切りであるけれども、それ以上のものではない。絶えることのない人の営みがあるだけ。

特集 開基100年の頃

昭和53年(1978)7月15日、奥尻町は開基百年の節目を祝いました。というのも、さかのぼること100年前の明治12年(1879)7月、奥尻地区(当時は釣懸:つりかけ、つるかけ)に釣懸・赤石・薬師・青苗四ヶ村戸長役場が置かれ、近代行政がスタートした日とされているのです。とは言え、それまでも近世期には松前藩の統治と幕府直轄時代があり、明治初年には数年間の福岡藩の統治時代、函館出張開拓使庁の管轄を経てのものでした。

さて、開基百年記念事業として、町民憲章の制定、記録映画の制作、「望郷の碑」建立、歴史民俗資料館の建設、シンボルマークの設定、町花・町木の設定、記念植樹、町勢要覧の作製、広報特別号(No.134)の発行が予定され、7月以降次々と実施されました。

記念式典は高松宮殿下、同妃殿下ご臨席の下、盛大に挙行されました。式典では功労者表彰、永年居住者への感謝状贈呈、先人物故者への献花、町民憲章の発表などが行われました。続く祝賀会では土地の名産品が提供され、「奥尻祈漁太鼓」や「江差餅つき囃子」などが披露されました。



記念品のペナント

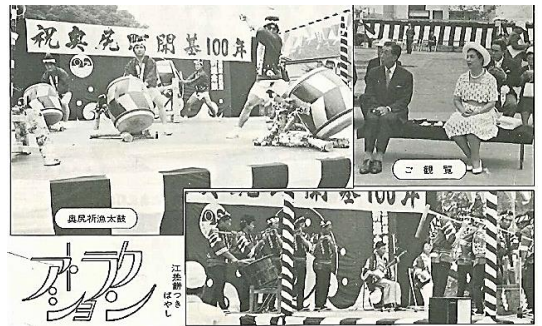
記念品の風呂敷

また、百周年を記念し、3月26日に奥尻町文化協会が設立され、会長に高津隆法、副会長に岩坂忠治、小山文男が選出されました。会員には、俳句、囲碁、書道、人形劇、ダンス、音楽、ギター、三味線、油絵などの愛好団体が加盟していました。

町木は「イチイ(オンコ)」、町花は「ハマナス」と決まり、今では町内の各地で植えられています。特にハマナスは、地震津波に襲われる前まで、稲穂岬周辺に天然のお花畑となって広がっていたものです。強い風雪に耐えながらも、毎年花を咲かせる丈夫な草花です。厳しい自然と調和しながら島の生活を守ってきた先人たちの姿を想像させます。

「望郷の碑」とは、西海岸のクズレ岬にあるナガレパークに建つ、「北追岬」のことで、世界的に有名な彫刻家である流 政之の手によるものです。碑は、地元の若者ととも数年間の歳月をかけて制作されたもので、昭和56年に完成しました。この望郷という意味合いは、神威協地区に戦後すぐに集団入植した元国後島の島民たちが、故郷を思い、偲ぶ心情を表しています。当時、道路も通じぬ西海岸の寒村に、280名もの集団で移住したものの、漁法の違いや厳しい季節風に悩まされ、再度の離島を余儀なくされた家族も多かったという、悲しい経緯があります。それでも、戦後混乱期の困難な時期を生き抜いて、島に根を下ろした人々のたくましさを感じさせる彫刻であるとも言えましょう。

奥尻町民憲章の「緑ゆたかな神威の山と、幸多い日本海を友として・・・」はまさに奥尻の環境を現しています。人工物の少ない島ですが、逆に自然は沢山あります。時に厳しい面を持ち合わせる大自然の中で恩恵を受けて生きていく、それが奥尻人なのです。



祝賀会での出し物 広報おくしり第134号より



望郷の碑



祝賀会を終えてパチリ 奥尻小グラウンド

一、郷土を愛し、ゆしく町に来よう	一、たがしいまにゆしく町に来よう	一、きましまし守りよ教養を高めよう	一、力をあしませよ心からだをきたえよう	一、自然を生かして環境をととのえ美しい町に	希な偉い望のみにち創意と住みはよいらぬづせり努めます。	の業民た海くす友たちは、雪は、清く、緑ゆたかな神威の山と、先人の	奥尻町民憲章
------------------	------------------	-------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------------------	--------



昭和26年(1951)頃と思われる谷地地区の海辺風景です。季節は冬、電柱がまばらに立つ町並みには降雪が見られます。数十年前まで奥尻港から赤石岬までの湾内には広い砂浜が広がっていました。今のような海岸線の防波堤が無い時代は家の前の浜(前浜)に自分の船を引き上げ、居住区と仕事場が混然一体となった漁村風景がみられました。昭和25年、神威山に米軍レーダー基地が出来てから、彼らの上陸用舟艇が谷地の浜に乗り上げるようになり、定期的に物資の積み下ろしがなされるようになりました。燃料用に大量のドラム缶が陸揚げされ、トラックに満載して山道を登るのが、彼らのつらい任務の一つだったのです。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

Dame-danna 図鑑
 井上ミノル

旦那さんの言い分もあるのですが、ここは一つ置いて、奥さんの言を聞きましょう。旦那のダメなパターンを例示してありますので、大変参考になります。読み流しているとだんだん笑えてきます。大笑いして、ふと気が付く。あれ、これ俺のことか？ そうです、笑っている場合ではありませんよ。奥さんはイライラしているのです。いや、もうあきれてるか。

月刊 奥尻のつり 5月号

5月3日から4日にかけて第9回奥尻島春の釣りフェスティバルが開催されました。今回は実行委の再編などがあったため、開催告知が遅れた影響もあり、島外からの参加者が少ない大会でした。それでも、札幌から毎回参加してくれる磯友会のベテラン勢と、キャスティング日本代表で「モンスター」の異名をとる正岡夫妻らが参加し、レベルの高い大会となりました。当日は強い南東風と朝まで続いた雨により、実力が試されることとなり、普段、悪天候時に釣りをしない奥尻勢は苦戦していました。結果は、カジカの52cmを上げた正岡哲哉さんが重量賞(10匹重量)との二冠を達成し、総合1位~6位までを札幌ほか島外参加者が独占することとなりました。今年は2週間ほどサイクルが早いようで、すでにヒラメやブリなどが釣れ始めています。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つしヶ月 第9回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より
てしをのらつたで俺でたになーいだボきぐ
来て引人トか。一は、。明もて。を来起朝 七月
な上っ達ンな明生兄他少るもうい縄下たき誰 二
くげ張はボくる懸ののしく隣明るをろーたか 十
なてっ道上なく命誰船暗なのる。上しとら起 一
って具げっなだにのいるおく処げた言、き 日
たた元をれたる。も来中ま父なでたらう兄て へ
。ら気かー。にも負るかでがる四ら確のが 火
、よた船ーつうけ心ら盛言つハ大かだー 曜
つ 急くづ頭もれ明な配つんっついきに。鳥 日
づ につに掛けのうてるいもいにたかつい手す賊 日
く 上げて声行鳥くつなたつがなけ奴応ぐ釣の 一
。 が声、。ぐ賊なもいのい反いた潮エトれ 日
っを錨船かもっり。 対ら噴ンてす

かえるこが財体デナリがフ
りばこれ網、験イハニ更レ五月
ま、とに羅花メタペユ新ツ月
す島マ観さのニイー(トより
よのツ光れ図ユブジア改
! 魅プ協た鑑ーでカル訂奥
力ー会便、、らし七尻島
がを発利島歴島ーま版島
一一行帳言史ののし(旅
目緒ので葉や味ハたさ案光
でにすな文覚ン。れ内パ
わ使ま。ど化、ニ、ン

島の観光パンフ更新



英語表記もあります

く立の砂青記まてい年津置た
どちで丘苗にで、た劣弁が指年
う寄、遺岬書以古も化天完定明
ぞり近跡のき上写ので宮了文け
。くくに徳換に真を讀のし化か
だをも洋え理も新み看ま財ら
さ通設記ま解ま調に板し説取
い行置念ししじしくはた明り
。のし碑たやえまく長。看細
よ際ま、。すてしな年特板ん
ろはし青他い、たつのにので
しおた苗に表今のて経宮設い

文化財看板完成です

るむい楽葉未しり記書登グ
のの国し書知てにがを録と最近
ががのむがの悪英原出しい近
楽面切だ届相戦語則しまう国ポ
し白手けく手苦辞なてし国ポ
みいとでのか闘書のいて、際ス
での肉なでらしをで、ま、文ト
す、で、筆くすとして引、す、外通ク
。文、がきいつ十。国サロ
帰字知、おま張教英にイツ
宅をら絵りすり年語絵トシ
す読なを絵。出ぶ表葉に

新表之記録(編集後記)

会貸下農街て三持で制り五の
：し行業並い年ち、作返○節今
2て事のみた震の町する年目年
一くな様やだ災古民の記をのは
3だど子海き前のの予念記年町
8さを、岸たま写皆定誌念で制
9い撮祭風くで真様で(し、施
0。しり景思(へのす。写、行
ま教たや、いを明家。真過町五
で育写イ漁ま提治庭そ集去で○
委員をんや。し九おを振、目

昔の写真集めています!



有栖川宮威仁親王御上陸六十年記念式印 昭和14年